

Briefing Transcription

|| 2026年6月期 決算説明会文字起こし ||

梅乃宿酒造株式会社

559A 東証スタンダード市場

[企業情報はこちら >>>](#)

[紹介動画はこちら >>>](#)

2026年8月25日 (火)



FISCO Ltd.

<https://www.fisco.co.jp>

■ 目次

■ 決算を受けてのFISCOアナリストコメント	01
■ 出演者	02
■ 決算説明	03

■ 決算を受けてのFISCOアナリストコメント

同社は1893年(明治26年)創釀の日本酒とリキュールを製造する酒蔵である。世界が評価した日本酒を原酒にすることで、リキュールを“ジャパニーズリキュール”としてグローバルに通用する品質へと昇華させている。日本酒仕込みのリキュールが売上の8割超を占め、海外売上構成比が約25%となっている(数値はいずれも2026年6月期実績)。
国内リキュール市場でのシェアは約16.7%である(2024年実績、同社調べ)。

2026年6月期業績は、売上高が前期比15.1%増の30.91億円、営業利益が同46.8%増の4.65億円、当期純利益が同33.6%増の3.22億円となった。売上高は国内売上、海外売上ともに好調に推移し過去最高を更新した。利益面では株式上場に伴う費用の増加があったものの、営業利益、当期純利益ともに前期比増益で着地となった。

チャネル別の売上では、国内B to B、同B to C、海外ともに前期比増収となった。酒販店、大手小売店、Costcoを主販路とし、売上高の60.8%を占める国内B to Bの売上は前期比4.8%増の18.77億円となった。2026年2月に値上げを行った「あらごしシリーズ」も堅調に推移した。

代理店や空港免税店を主販路とし、売上の24.9%を占める海外の売上は同59.6%増の7.70億円と大幅な伸長となった。北米・台湾での好調な売上が牽引した一方、空港免税店はインバウンド需要が継続したものの中国旅客減少の影響もみられた。

自社EC(電子商取引)、モール、直営店を主販路とし、売上の14.3%を占めるB to Cは同7.8%増の4.43億円となった。EC売上は同7.6%増の3.27億円となった。自社モールは堅調さを維持し、Amazonは主力リキュールランキング上位を維持した。直営店売上は同8.4%増の1.1億円となった。観光需要の取込みにより底堅さを維持した格好である。

利益面では海外の売上をはじめとする売上伸長による増収効果により、売上増加による物流費増、人員増・上場に伴う特別賞与、第2蔵土地取得(奈良県葛城市、面積約18,000m²)に伴う関連費用、さらには株主優待引当金による管理諸費の増加を吸収し大幅増益を達成した。

2027年6月期業績の会社予想は、売上高が前期比5.2%増の32.50億円、営業利益が同16.2%増の5.40億円、当期純利益が同11.2%増の3.59億円を見込む。売上面では、国内B to B、海外、B to Cの3チャネルとも増収を見込む。粗利益率は同1.5ポイント改善し、57.6%まで改善する見込み。「あらごしシリーズ」の値上げ効果の通期寄与や2026年10月の酒税改定による主力リキュール価格改定によるものである。

同社は今後の海外展開を成長戦略の中心に据えている。アジア・オセアニア・北米・欧州の海外エリアに対し、リキュール、日本酒、スピリッツを輸出し、今後も世界各国への輸出を強化していく方針である。海外売上の41.1%を占めるアジアでは、中国・台湾・香港を中核市場に位置づけ、インド、シンガポールを含むASEAN、韓国など成長国での取引拡大を推進する。18.6%を占める北米においては、代理店を通じたリキュール販売強化により量販・専門店の両軸で拡大する。11.7%を占める欧州では、ドイツとフランスを中核に、高付加価値市場でのブランド浸透を推進する。6.8%を占めるオセアニアにおいては、オーストラリアを拠点市場とし、ニュージーランドへの販路拡張で南半球市場を強化する方針である(数値は2026年6月期実績)。

持続的な成長と中長期的な企業価値向上のため、安定的・継続的な株主還元を実施する方針である。配当性向は40%を目安とする。2027年6月期は自己株式取得10%を計画している。

梅乃宿酒造株式会社 | 2026年8月25日 (火)
559A 東証スタンダード市場

■ 出演者

梅乃宿酒造株式会社
代表取締役社長

吉田 佳代様

■ 決算説明



■ 梅乃宿酒造 吉田様

皆様、本日はお忙しいところ、梅乃宿酒造株式会社の2026年6月期通期決算説明会をご覧いただき、誠にありがとうございます。代表の吉田佳代でございます。

本日は、去る8月10日に開示いたしました「2026年6月期通期決算補足説明資料」に沿って、当期の業績概要及び来期2027年6月期の事業計画についてご説明申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。



本日の目次でございます。本日は大きく2つのパートに分けてご説明いたします。第1パートでは2026年6月期通期業績概要、第2パートでは2027年6月期事業計画についてお伝えいたします。なお、会社・事業概要につきましては、本動画ではご説明いたしません。

01 2026年6月期通期業績概要

それではまず、2026年6月期通期業績概要についてご説明いたします。

決算サマリー



- ・売上高は、国内・海外とも好調に推移し、過去最高を更新
- ・上場に伴う費用の増加はあるも、営業利益、当期純利益とも前期比増益で着地

売上高 3,091百万円 前期比115.1%	営業利益 465百万円 前期比146.8%	当期純利益 322百万円 前期比133.6%
EBITDA 671百万円 前期比128.3%	ROE 9.5% 前期比+1.6pt	1株当たり当期純利益 53円61銭 前期比133.6%

2026年6月期の決算サマリー及び業績ハイライトです。

2026年6月期は、国内・海外ともに販売が極めて好調に推移し、売上高は前期比115.1%となる30億9,100万円を達成し、過去最高売上を更新いたしました。

利益面につきましても、2026年4月24日の東京証券取引所スタンダード市場への上場に伴う一時的な費用が発生したものの、売上増加に伴う利益の増加や利益率の改善によりこれを吸収し、営業利益は前期比146.8%の4億6,500万円、当期純利益は前期比133.6%の3億2,200万円と、営業利益・当期純利益ともに前期を大きく上回って着地いたしました。

梅乃宿酒造株式会社 | 2026年8月25日 (火)
559A 東証スタンダード市場

決算説明

業績ハイライト



・売上高、当期純利益とも計画以上に着地し、堅実に成長

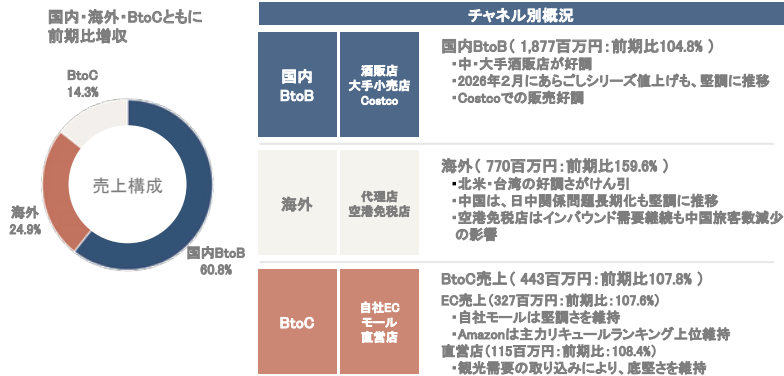
金額単位: 百万円

	2025/6期	2026/6期	対前期増減		2026/6期	対計画増減
	金額	金額	金額	増減率	金額	増減率
売上	2,684	3,091	406	115.1%	3,019	102.4%
国内	1,791	1,877	86	104.8%	1,863	100.8%
海外	482	770	289	159.6%	707	109.0%
BtoC	411	443	32	107.8%	449	98.5%
売上総利益	1,495	1,734	239	116.0%	1,716	101.0%
マージン	55.7%	56.1%	-	0.4pt	56.9%	△0.8pt
営業利益	317	465	148	146.8%	482	96.5%
マージン	11.8%	15.1%	-	3.3pt	16.0%	△0.9pt
当期純利益	241	322	81	133.6%	315	102.2%
マージン	9.0%	10.4%	-	1.4pt	10.5%	△0.1pt
EBITDA	531	671	140	126.3%	686	97.8%
マージン	19.8%	21.7%	-	1.9pt	22.7%	△1.0pt

こちらは業績のハイライトです。国内・海外市場ともに大変好調に推移し、売上高は過去最高を更新いたしました。海外市場の急速な伸長及び増収効果、並びに価格改定による粗利率改善が寄与し、各段階利益において前期比大幅な増益を達成いたしました。

公表計画に対しましても、売上高102.4%、当期純利益102.2%と、計画を上回る堅調な着地となっています。

売上業績サマリー



チャネル別の売上状況をご説明いたします。当期は、国内BtoB・海外・BtoCのすべてのチャネルで前期比増収を達成いたしました。

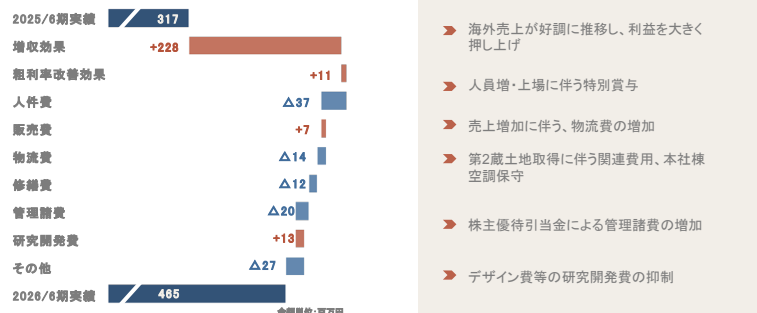
まず、売上全体の60.8%を占める国内BtoBは、前期比104.8%の18億7,700万円となりました。本年2月にあらごしシリーズの値上げを実施いたしましたでしたが、需要の底堅さは衰えず、中・大手酒販店様及びCostco様での販売が好調に推移いたしました。

次に、売上の24.9%を占める海外は、前期比159.6%の7億7,000万円と大幅な増収を記録いたしました。主に北米や台湾での拡大が全体を強力に牽引しています。中国市場につきましても、日中関係問題の長期化という課題はあるものの、堅調に推移しています。

梅乃宿酒造株式会社 | 2026年8月25日 (火)
559A 東証スタンダード市場

決算説明

営業利益分析



営業利益の対前期増減分析です。営業利益は、前期の3億1,700万円から1億4,800万円増加し、4億6,500万円となりました。増益の主要因は、海外売上の急拡大に伴う増収効果がプラス2億2,800万円、価格改定による粗利率改善効果がプラス1,100万円です。

一方で、組織補強に伴う人員増及び上場特別賞与による人件費の増加がマイナス3,700万円、売上増に伴う物流費の増加がマイナス1,400万円、並びに第2蔵の土地取得に関連する費用などの修繕費がマイナス1,200万円、株主優待引当金の計上による管理諸費がマイナス2,000万円などの費用増加がございましたが、増収効果及び粗利率改善効果がこれらを大きく上回りました。

2026年6月期トピックス





AFULL

刻 覚

梅乃宿130余年の
歴史と叡智を注いだ
梅酒のひとつの完成形

AFULL刻覚(ときさめる)
2026年6月15日発売
容量: 350mL
アルコール度数: 10度
小売価格: 220,000円(税込)



当期のトピックスでございます。まず、新ブランド「AFULL」の展開についてご紹介いたします。
2026年6月15日、当社の130余年の歴史と技術の粋を集めた最高峰の梅酒「AFULL刻覚(ときさめる)」を発売いたしました。当社のフラッグシップブランドとして高い評価をいただいております。350mL、税込22万円というラグジュアリーな価格帯設定でありながら、酒販店様を中心に、ハイエンド層へ向けた認知度拡大とブランディングに大きく貢献しております。2027年6月期は、注力商品の1つとして拡販を進めてまいります。

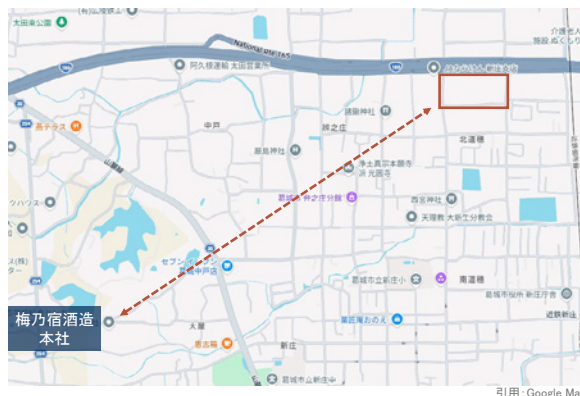
梅乃宿酒造株式会社 | 2026年8月25日 (火)
559A 東証スタンダード市場

決算説明

2026年6月期トピックス



- 第2蔵用地取得
- 目的
増産体制に向けた
生産設備拡大
- 立地
奈良県葛城市
本社から車で約5分
- 面積
約18,000㎡



続いて、将来に向けた増産体制の構築に向けた第2蔵用地の取得についてです。奈良県葛城市の本社から車で約5分、同じ葛城市に立地する約18,000㎡の第2蔵建設用地を取得いたしました。国内の販路拡大に加え、世界的な需要増に応える供給体制の確立に向けた重要な布石であり、これにより、数年後の本格的な生産設備拡張に向けた足掛かりを確実に確保いたしました。

取得の目的ですが、現在の売上高規模におきましては本社の生産設備で賄うことができるものの、売上高50億円規模を境に第2蔵稼働の必要性を考えており、また、本社近隣の平地にまとまった用地を低コストで取得できるタイミングでもありましたので、取得に至っております。今後5年程度での第2蔵の稼働を計画しています。

02 2027年6月期事業計画

続きまして、2027年6月期事業計画についてご説明いたします。

梅乃宿酒造株式会社 | 2026年8月25日 (火)
559A 東証スタンダード市場

決算説明

2027年6月期事業計画ハイライト



金額単位: 百万円

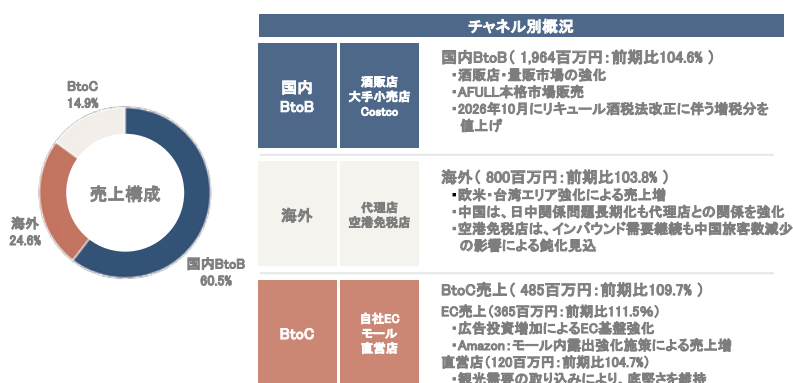
	2026/6期	2027/6期	対2026/6期	
	金額	金額	金額	増減率
売上	3,091	3,250	159	105.2%
国内	1,877	1,964	87	104.6%
海外	770	800	29	103.8%
BtoC	443	485	43	109.7%
売上総利益	1,734	1,872	139	108.0%
マージン	56.1%	57.6%	—	1.5pt
営業利益	465	540	75	116.2%
マージン	15.1%	16.6%	—	1.6pt
当期純利益	322	359	36	111.2%
マージン	10.4%	11.1%	—	0.7pt
EBITDA	671	763	93	113.8%
マージン	21.7%	23.5%	—	1.8pt
総資産	6,368	6,473	105	101.7%
純資産	3,534	3,741	207	105.9%
自己資本比率	55.5%	57.8%	—	2.3pt
ROE	9.5%	9.9%	—	0.4pt
1株当たり当期利益	53.60	59.63	6.03	111.2%
1株当たり配当金	21.44	23.85	2.41	111.2%

- 売上は、国内・海外・BtoCとも増収
- 2026年2月のあらごしシリーズの値上げ・26年10月の酒税改定による主力リキュール価格改定が粗利率改善に寄与
- 各段階利益とも前期比で増益を計画し、当期純利益は前期比10%成長を維持

2027年6月期の業績計画サマリーです。来期は、全販売チャネルでの増収を前提に、売上高は前期比105.2%の32億5,000万円、営業利益は前期比116.2%の5億4,000万円、当期純利益は前期比111.2%の3億5,900万円と、売上高について過去最高の更新を継続する計画です。

主要商品の価格改定効果に加え、本年10月に予定されている酒税改定に伴う適切な価格転嫁により、売上総利益率は57.6%へ1.5ポイント改善し、当期純利益におきましても前期比10%以上の成長を維持いたします。2027年6月期における利益確保により、総資産は64億7,300万円で前期比101.7%、純資産は37億4,100万円前期比105.9%と、いずれも増加を見込み、自己資本比率も57.8%へと2.3ポイント上昇する計画です。

売上目標サマリー



来期のチャネル別売上目標についてご説明いたします。

国内BtoBは、前期比104.6%の19億6,400万円を目指します。酒販店・量販店市場のさらなる開拓に加え、AFULLの本格市場展開、及び酒税改定に伴う増税分の価格転嫁を実施いたします。

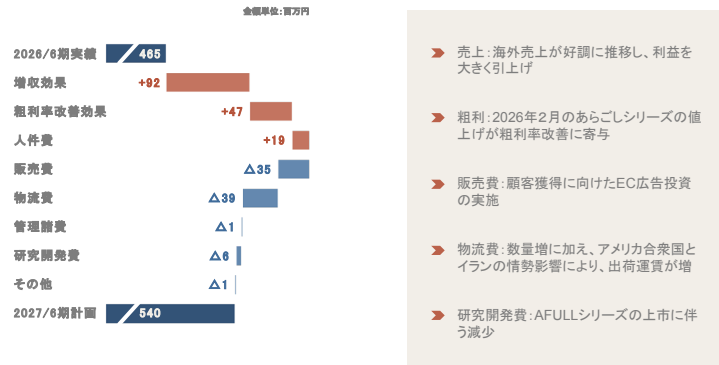
海外につきましては、前期比103.8%の8億円への拡大を図ります。欧米・台湾エリアの販路強化による売上増のほか、中国は現在、日中関係問題が長期化している状況にはありますが、代理店との関係を強化させ、増収を計画しております。空港免税店は、インバウンド需要は継続しておりますが、中国旅客数が減少している状況もあり、その影響による売上の鈍化を見込んだ計画となっています。

梅乃宿酒造株式会社 | 2026年8月25日 (火)
559A 東証スタンダード市場

決算説明

BtoC、すなわちEC及び直営店は、前期比109.7%の4億8,500万円を計画しております。特にECにおいて広告投資を強化し、Amazonをはじめとするモール内での露出を高めて新規顧客獲得を加速させます。また、直営店においても、引き続き観光需要の取り込みを強化し、着実な増収を見込んでいます。

2027年6月期営業利益目標



営業利益目標についてご説明いたします。来期営業利益5億4,000万円、前期比プラス7,500万円の増減要素の計画内訳です。増収効果でプラス9,200万円、あらごしシリーズの値上げ及び酒税改定対応による粗利率改善でプラス4,700万円を見込んでいます。

一方で、EC顧客獲得に向けた広告投資による販売費マイナス3,500万円や、中東情勢等の影響による運賃高騰を見込んだ物流費の増加マイナス3,900万円など、積極投資に伴うコスト増を織り込んでおりますが、粗利改善がこれを上回り、営業利益率は16.6%へ1.5ポイント高まり、全体として増益を確保いたします。

財政状況及びキャッシュフロー



BS	25/6期	26/6期	27/6期目標
流動資産合計	2,861	2,799	3,101
固定資産合計	3,199	3,588	3,372
資産合計	6,061	6,388	6,473
流動負債合計	557	759	897
固定負債合計	2,310	2,074	1,834
純資産	3,192	3,534	3,741
負債・純資産合計	6,061	6,388	6,473

CFS	25/6期	26/6期	27/6期目標
営業CF	250	688	583
投資CF	△ 246	△ 618	△ 49
FCF	4	68	534
財務CF	△ 242	△ 259	△ 399
期首現金	1,755	1,516	1,423
期末現金	1,516	1,324	1,557

- 固定資産: 26年6月期は、主に第2蔵用地の取得により有形固定資産が増加
27年6月期は、減価償却が進む減少
- 純資産: 主に増収増益に伴う利益剰余金の増加
- CFS: 生産効率化設備の投資も営業CF堅調により、FCFは増加
また、借入返済と配当により財務CFは増加

バランスシート及びキャッシュフローの見通しです。2026年6月期は第2蔵の用地取得により有形固定資産が増加いたしました。2027年6月期は前期の用地取得が一巡したことで減価償却が進み、落ち着く見込みです。利益成長に伴い純資産は着実に積み上がり、健全な営業キャッシュフローを原資として、設備投資、借入返済、株主還元をバランスよく進めてまいります。

梅乃宿酒造株式会社 | 2026年8月25日 (火)
559A 東証スタンダード市場

決算説明

今後の海外展開

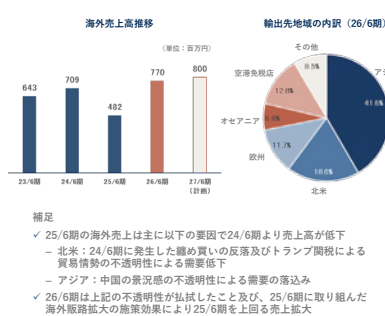
アジア・オセアニア・北米・欧州の海外エリアに対し、リキュール、日本酒、スピリッツを輸出。
今後も世界各国への輸出を強化していく方針

海外展開の方針

- ・海外24の国または地域^{※1}に展開
- ・輸出先地域は、アジア、北米、欧州、オセアニア



海外展開の状況



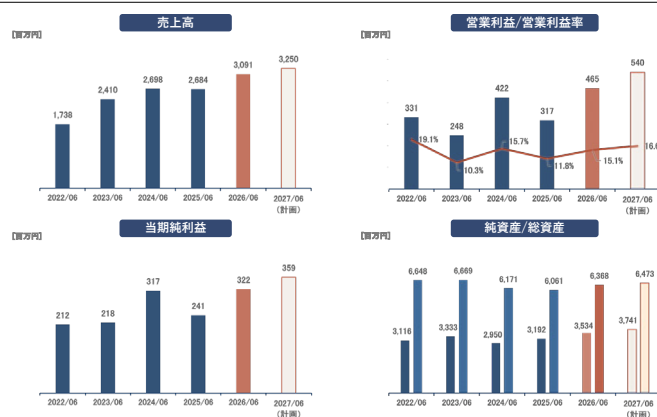
※1 2023年6月期から2026年6月期までの出資実績のある国。

15

今後の海外展開についてご説明いたします。当社の海外売上は、2025年6月期に一時的な需要の反落や不透明感から落ち込んだものの、当期2026年6月期にはこれらを払拭し、7億7,000万円まで大きくV字回復いたしました。

今後は、中国・台湾・香港の中核市場に加え、ASEAN諸国での取引を拡大いたします。さらに、オーストラリアや北米での量販店開拓、欧州でのブランド浸透を推進してまいります。来期2027年6月期は8億円の計画を掲げ、世界的な「ジャパニーズリキュール」の位置付けに向けた足掛かりを築いてまいります。

業績推移



これまでの業績推移と今後の計画でございます。売上高は、2022年6月期の17億3,800万円から年平均15%を超えるペースで拡大を続け、当期は30億9,100万円と過去最高を更新いたしました。利益面におきましても、営業利益率は15.1%まで上昇し、収益体質の強化が確実に進んでいます。

来期2027年6月期は、売上高32億5,000万円、営業利益5億4,000万円、営業利益率16.6%、当期純利益3億5,900万円を見込んでいます。純資産・総資産ともに健全性を高めつつ、今後も規律ある成長投資と収益向上を両立させ、中期的な企業価値向上に努めてまいります。

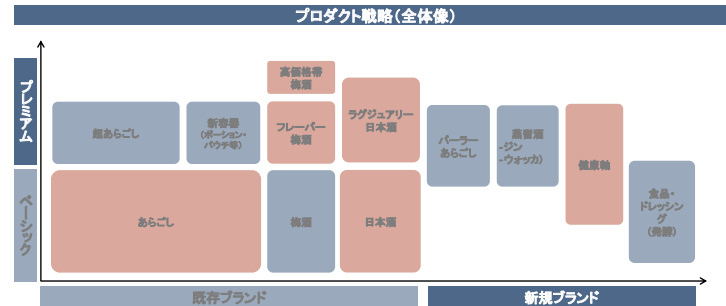
梅乃宿酒造株式会社 | 2026年8月25日 (火)
559A 東証スタンダード市場

決算説明

2027年6月期事業計画プロダクト戦略



多様なブランド展開・ラインナップの強化で選ばれる梅乃宿へ。



続いて、プロダクト戦略についてです。当社は、こちらにお示しする図のとおりブランド・プロダクトを整理しており、多様なブランド展開を推進しております。今期は特に、あらごしシリーズ、高価格帯梅酒、日本酒を中心にラインナップを強化してまいります。今後も、選ばれる梅乃宿に向けて、多様なラインナップの強化を図ってまいります。具体的には次のページでご説明いたします。

2027年6月期事業計画プロダクト戦略



AFULL「刻覚」  ハイブランド梅酒の最高峰 AFULLブランドを酒販店様中心にハイエンド層向けに本格販売	あらごし20周年  2026年あらごしシリーズは20周年を迎えます 節目の年に新たなシェア拡大へ向けて、施策を計画
日本酒拡充  私たちの根幹である日本酒について、ブランドを再定義 フラッグシップの葛城を筆頭に梅乃宿の日本酒を皆様へ	健康軸商材への注力  発酵させ醸造するあらたなお酒を発売予定 トマト・お酢とは異なる新たな切り口で健康基軸商材を展開

こちらが具体的なプロダクト戦略のトピックスです。

- 1つ目に、「AFULL刻覚(ときさめる)」を、梅酒の最高峰として、酒販店様を中心に本格発売を行います。
- 2つ目に、2026年に20周年を迎えるあらごしシリーズにつきまして、節目の年に合わせたシェア拡大策を計画しております。
- 3つ目に、日本酒については、当社の根幹であり、フラッグシップである「葛城」を筆頭とした日本酒ブランドの再定義を行い、より多くのお客様へお届けできるよう販路拡大を行います。
- そして4つ目に、健康意識の高いお客様に向けて、これまで甘くておいしいトマトやお酢を使ったリキュールなどを展開してまいりましたが、2027年6月期は、当社の発酵技術を活かした健康軸商材を新たに展開する計画としています。

梅乃宿酒造株式会社 | 2026年8月25日 (火)
559A 東証スタンダード市場

決算説明

投資・株主還元実績・計画



■ 設備投資

2026年6月期

- ・効率化投資 : 生産効率化設備投資
- ・環境投資 : 製造棟空調
- ・成長投資 : 第2蔵用地取得

2027年6月期

- ・効率化投資 : 生産自動化設備投資

■ 株主還元

2026年6月期

- ・配当性向40%・自己株式取得10%
- ・一株当たり配当金 21円44銭

2027年6月期

- ・配当性向40%・自己株式取得10%維持を計画
- ・一株当たり配当金(予定)
23円85銭(前期比+2円41銭)

➤ 将来の売上増加に向けた設備投資を継続的に実施

➤ 数年後の第2蔵建設に向けた収益の確保

➤ 配当による株主還元を基軸とし、継続的な配当の実施を計画

最後に、投資計画及び株主様への還元施策の方針です。設備投資につきましては、将来の第2蔵建設を見据えつつ、足元では生産自動化に向けた効率化投資を進めます。

株主還元は、配当性向40%、自己株式取得10%の積極的な方針を維持し、2027年6月期の配当は、前期比2円41銭増配となる1株当たり23円85銭を予定しています。

私からの説明は以上です。2027年6月期も当社の成長に向けて邁進してまいりますので、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。ご清聴、誠にありがとうございました。

重要事項 (ディスクレーマー)

株式会社フィスコ(以下「フィスコ」という)は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものです。フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受け、企業から報酬を受け取って作成されています。本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは堅く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

■お問い合わせ■

〒107-0062東京都港区南青山5-13-3

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443 (IRコンサルティング事業本部)

メールアドレス：support@fisco.co.jp